

## 株式会社サトー・象印マホービン株式会社による「マイボトル利用促進プログラム」導入 ～MUFG 銀行・信託・証券の社員による CO<sub>2</sub>削減への取り組み～

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ（代表執行役社長 亀澤宏規、以下 MUFG）の連結子会社3社（三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券）は、「社会課題の解決」に向けた取り組みの一環として、プラスチックカップやペットボトル利用削減によるCO<sub>2</sub>排出量削減及び社員啓発を目的として、株式会社サトー（代表取締役 社長執行役員 グループ CEO 小沼 宏行、以下サトー）と象印マホービン株式会社（代表取締役 社長執行役員 市川典男、以下象印）が提供する「マイボトル利用促進プログラム（以下、「プログラム」）」を導入します。

### 1. 導入の目的

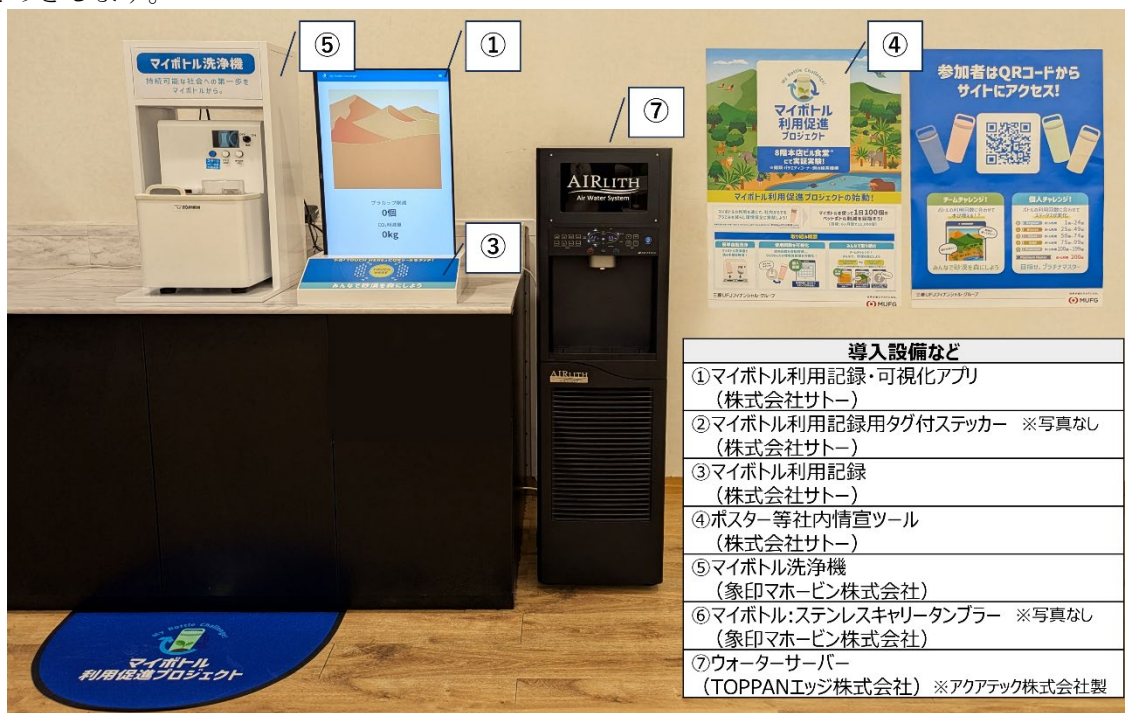
MUFGは、2021年5月に2050年カーボンニュートラル宣言を公表し、この実現に向けてさまざまな取り組みを進めています。また、中期経営計画では「社会課題の解決」を3つの柱の一つに位置付け、サステナビリティ経営において「カーボンニュートラル社会の実現」、「自然資本・生物多様性の再生」、「循環型経済の促進」は、優先課題として位置付けられています。

今般、MUFGは、こうした「社会課題の解決」に社員自ら実践する機会を提供するべく、サトーが構築した「プログラム」の導入を決定しました。サトーによる「プログラム」を活用した、マイボトルの利用を促す取り組みを半年間実施することで、プラスチックカップやペットボトル利用削減によるCO<sub>2</sub>排出量の削減をめざすとともに、社員の環境への関心・意識の醸成と行動変容を促進します。

また、本取り組みの実施前・中・後において、その効果検証を目的に参加者へのアンケートや使用済みペットボトル量の変化やCO<sub>2</sub>削減量などの定量分析を実施し、今後の「社会課題の解決」への貢献に向けた取り組みに活用していきます。

### 2. 取り組み概要

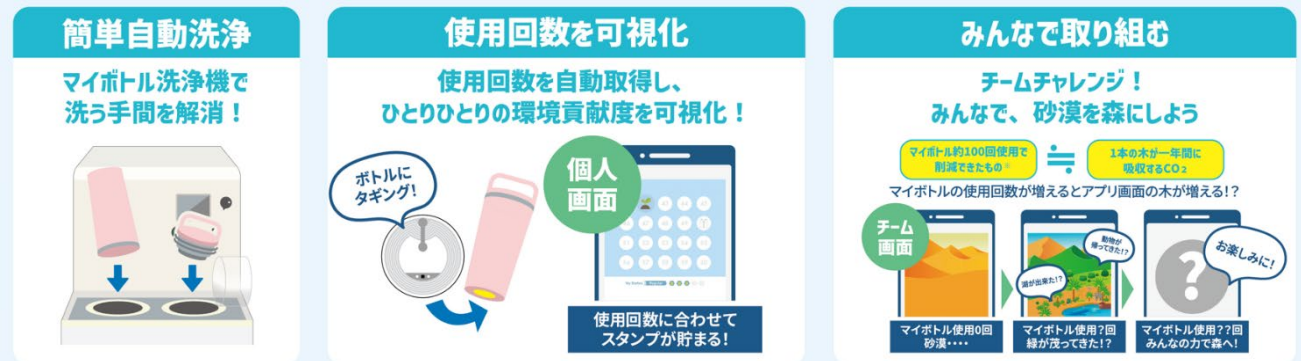
本件は、上記「1.」の目的のもと、三菱UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、三菱UFJモルガン・スタンレー証券の3社が協働して取り組みます。本取り組みは、各社の本部系組織が集結するMUFGの本店ビルで実施し、同ビルに在籍する社員自らが、マイボトルの利用促進を通じた「社会課題の解決」を実践します。参加者は、公募によって選定された同ビルに勤務する各社社員（合計400名）で構成され、2025年5月から半年間、オフィスでのマイボトル利用を推進し、参加者合計で14,500本の使用済みペットボトルの削減と1,740kg-CO<sub>2</sub>eのCO<sub>2</sub>削減をめざします。



### 3. 「マイボトル利用促進プログラム」の概要

マイボトルの継続的な利用を促進し、プラスチックカップやペットボトル利用削減による CO2 排出量の削減を実現するプログラムです。こうした、プラスチックに関する社会課題解決に向けて構築した「プログラム」は、サトーの強みである自動認識技術（RFID<sup>※1</sup> など）に、新たに独自開発した CO2 の削減量などを可視化するアプリや、象印がマイボトル利用の課題解決に向けて新たに開発したマイボトル洗浄機などを用い、オフィスでのマイボトルの利用を推進し、社員の行動変容を促します。

なお、本プログラムは、環境・SDGs 教育やごみを研究テーマとされている総合地球環境学研究所 浅利美鈴教授らの研究グループにより、その有効性が検証・評価されています。



以上

#### 【サトーについて】

サトーは、あらゆるものを情報化して、社会のうごきを最適化します。グループ全体では、90を超える国・地域でビジネスを展開する創業 1940 年のグローバル企業です。バーコードや RFID などに代表される、自動で情報を認識・入出力するための技術（自動認識技術）を用いて、リアルな世界のあらゆるものを情報化し、その情報を活用することで、現場ごとに最適な課題解決の仕組みを提供しています。（2024 年 3 月末時点）

名称	株式会社サトー（代表取締役 社長執行役員 グループ CEO 小沼 宏行）		
設立	1951 年（昭和 26 年）5 月 16 日	資本金	84 億円
所在地	東京都港区芝浦 3 丁目 1 番 1 号 msb Tamachi 田町ステーションタワーN		
事業内容	自動認識ソリューション商品（ラベルプリンター、RFID プリンター、ラベル自動印字貼付機、ソフトウェア、シール・ラベル、RFID タグ、ハンドラベラーなど）の企画、開発、設計、製造、販売、保守。バーコードリーダー、RFID リーダー、自動貼りロボットなど他社周辺機器を組み合わせた総合的なソリューションの企画提案。		
ウェブサイト	<a href="https://www.sato.co.jp/">https://www.sato.co.jp/</a>		

#### 【象印について】

象印マホービン株式会社は、1918 年の創業以来「暮らしをつくる」を企業理念に、炊飯ジャー・電気ポットなどの多種多様な「調理家電」製品、ガラス・ステンレスマホービンを中心とした「リビング」製品、空気清浄機や加湿器などの「生活家電」製品に取り組むことにより、皆さまの暮らしをバックアップしています。

また、製品以外にも様々な事業を展開し、食と暮らしのソリューションブランドを目指しています。（2024 年 11 月 20 日時点）

名称	象印マホービン株式会社（代表取締役 社長執行役員 市川典男）		
設立	1918 年（大正 7 年）5 月 10 日	資本金	40 億 2,295 万円
所在地	大阪市北区天満一丁目 20 番 5 号		
事業内容	調理家電製品、生活家電製品、リビング製品などの製造・販売およびこれに付帯する事業		
ウェブサイト	<a href="https://www.zojirushi.co.jp/">https://www.zojirushi.co.jp/</a>		

<sup>※1</sup> RFID（Radio Frequency Identification：無線周波数識別）とは、電波（電磁波）を用いて無線でデータの読み取りを行い、モノの識別や管理を行うシステムのことです。RFID タグは、データが入っている記録媒体を指します。身近な例では、アパレル店舗のセルフレジや、交通系 IC カード、車のスマートキー、などで活用されています。